

名古屋外国語大学海外派遣プログラム成果報告書

2022年11月25日

学部・学科名 現代国際学部 現代英語学科

担当教員氏名 木村茂雄

1. 区分	中期留学 ・ <u>語学研修</u> ・ 海外実習
2. プログラム名称	現代英語交流プロジェクト (QUEST)
3. 渡航先国名	アイルランド
4. 派遣期間	2022年7月30日(土) ~ 2022年8月23日(火) 25日間
5. 派遣先教育機関名	ダブリンシティ大学
6. 参加学生数	17名
7. 派遣目的	英語が母語として話されている国で、その土地の人々及び他国からの留学生との交流を深める。また、その土地の文化及び、社会等を直に学ぶこと。
8. 派遣内容	<p>研修先大学で General English コースを履修し、出発前に行われたクラス分けテストによって振り分けられたレベル別のクラスで、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングや、アイルランドの文化や歴史を学ぶ。クラスによっては他国籍の学生も在籍しており、お互いに異国の文化や歴史を共有、比較するなど、貴重な体験ができる。</p> <p>放課後には自由参加の Social Activity が行われ、現地の観光名所を訪れ、学びを深めることが出来る。宿泊形態は寮宿泊のため、現地で食材を購入し自炊して生活をする。</p>
9. 成果	<p>帰国後のアンケート、レポートでは以下のような成果が挙げられていた。</p> <p>日本とは全く異なる、アイルランドでの食文化や、生活様式、宗教などを学ぶことが出来た/今後の英語学習の意欲向上につながった/他国からの留学生と交流し、アイルランド以外の国の文化や英語以外の言語を学ぶことが出来た。日本語を教える機会もあり、いい勉強になった/英語での会話</p>

	力が向上し、英語を話すことに対する抵抗が少なくなった
10. 備考	なし

以上

QUEST に参加するにあたって 掲げた目標に対する達成度

QUEST に参加するにあたり、2つの目標を掲げた。1つ目は、QUEST で体験したことをパワーポイントにまとめること。2つ目は、9月10日の TOEFL で 550 点を取ることだ。

1つ目の目標は大いに達成できた。帰国してから記憶が薄れないように QUEST 期間中は毎日日記をつけた。オンラインではなく、実際にアイルランドに行き、アイルランドの文化と空気を体験することを QUEST の参加を希望した理由としていた。したがって、自分がどのようなことに心動かされたか、生活するときどのようなことを困難に感じたかを記録するように心がけた。帰国後は、これらのことをパワーポイントにまとめた。せっかくなので、製本した。家族に見せると、わかりやすく良い、今後 QUEST に参加する人も参考になると高評価をもらった。自分でも満足のいくものができたと思う。自分は何かをわかりやすくまとめることが好きなのだとは再認識できたことが、パワーポイントにまとめたことによる収穫だった。

2つ目の目標はまだ結果は出ていないけれど、達成には程遠いと思う。もちろん、DCU の英語の授業は真剣に受講した。中学生から教わってきた方法とは異なる英文法の指導法だったので、現在形や現在進行形などの簡単な文法も新たな学びがあっておもしろかった。QUEST に参加する前の自分では考えられないが、知らない人にも英語で話しかけることも頑張った。頭の中で考えていることを即座に正しい文法で話すことはなかなかできなかったけれど、自分の英語も通じることに喜びを感じた。英語で話す度胸と何としてでも伝えようとする力がついたと思う。一方で、ツアーに参加した時、ツアーガイドの英語が全く聞き取ることができなかった。もっと英語力をつけたいと思った瞬間だった。TOEFL の点数を上げるためには、そのための勉強を自分で継続してやっていく必要があることがある。しかし、帰国後は燃え尽き症候群かのように英語学習に身が入らなかった。英語学習は腹筋と同じで、一日頑張っただけではどうにかなることはない。日々の努力が結果につながると思う。このレポートを書いていると、英語学習の意欲が再び湧いてきたので、また頑張りたい。

以上をまとめると、目標の達成度合いは、半々と言える。QUEST は終了したが、多文化学習と英語学習は今後も私の中で続いていくものだと思う。アイルランドで過ごした1か月弱を無駄にせず、今後の授業や自己学習に繋げていきたい。

QUEST22 に参加するにあたって 掲げた目標に対する達成度

私はこのアイルランドの留学に参加するにあたり掲げた目標の達成度は60パーセントだと考えました。私の掲げた目標は主に3つあります。これらの目標を意識して、3週間過ごしました。

一つ目の目標は「出発前から自分の英語力を見直し、現地で使う。」でした。現地では、実際に話す場面になると自分が想定していたよりも言葉が出ず、驚きました。私にとっては初めての海外であり、驚く点が多くありました。まず、今まで自分が聞いていた英語がどれだけ聞き取りやすかったかに気づきました。現地の方が話す英語や、母語が英語ではない国のクラスメイトの英語の聞き取りづらさに苦戦しました。ただでさえリスニングが苦手なため、話すときのプレッシャーが大きくなりました。しかし、後半に差し掛かるころには耳が慣れてきくというのを感じ、リスニング力の向上を感じました。出発前に勉強したことが100%活かされたと言われると決してそうではありませんが、海外で自分の英語について知ることができ、新たな課題や学ぶべきことを見つめることができました。

二つ目の目標である「現地では一人で行動する」という目標はほとんど達成することができませんでした。この研修に参加するまでは、せっかく海外に来たのに現地で日本人と交流するなんてもったいないと考えていました。しかしその考えは変わりました。現地で長期留学をしている東京や九州、大阪の方から来ている日本人の方とお話しし、様々なバックグラウンドを知ることができました。自分と同じ国から来ているからこそ、学ぶことが多くありました。また、そこから交友関係の輪が広がり多くの人と出会うことができました。日本にいたら絶対出会わない方々と仲良くなれて漢語の自分のモチベーションにもなりました。そして留学先では国籍を問わず、一つ一つの出会いをもっと大切にしていこうと考えが変わりました。

三つ目の目標である「話すときに躊躇しない」は100%達成できました。文法の正確さを考えすぎてしまい、話す前にワンテンポ遅れることを改善したいと考えていました。この留学中はとにかく思いついたら話しかけました。町の人でも、クラスメイトでも、気になったことをすぐに聞くようにしていました。授業中に質問をすればどんな時でも教えてくださる先生や、向上心が高いクラスメイトのおかげで、より話すことへの抵抗がなくなりました。

以上のような理由で達成度は60%でした。掲げた目標の視点のみで考えるとこの結果ですが、それ以外に多くの学びや経験があり自分の中の留学の達成度は100%以上でした。

QUEST22 に参加するにあたって 掲げた目標に対する達成度

私はこの QUEST で「英語を話すことに対して恐怖心を無くし今まで以上に自信を持って話せるようになる」という目標を掲げて参加した。実際に参加してみて、初めは話すまでに伝わるか分からず恐怖心があり黙り気味になっていたが、日にちが経つにつれて前よりも英語に慣れ、恐怖心も少しずつ薄れていった。現地でのクラスでは、フランス人やイタリア人、日本人、韓国人と多様なクラスだった。そこではペアがいつも同じでないように席を変えて授業を受けることで日本人だけでなく日本人以外の意見を聞き、積極的に会話をし、仲を深めることができた。その結果、日本では常識であることが常識ではなかったり、今までとは違う視点から見た意見を持っていたりと驚くことが多くとても興味深かった。しかし、この授業を受けての反省点として2つある。1つ目はもっと日本の経済状況や社会問題について勉強すべきだったと後悔している。日本の社会問題について議論する時に何か問題を提示することができても具体的な内容をあまり話すことができず、上っ面だけの薄い意見を話すことしかできなかった。海外の問題だけではなく、日本の問題についてももっと興味関心を持つべきであると痛感した。2つ目は話を聞く側に回ることが多かったことである。この QUEST に参加するにあたり、今まで以上には積極的に会話をするようににはなっていたが、まだ聞き手側に回り相槌を打つだけで、黙って話を聞くことの方が多いと感じた。日本語では表現することができるが、英語での表現が難しいものを頭の中で思い浮かんでしまうと分からなくなりその後に会話が続かないことよくあった。頭の中で何かを話すとなった時に1回ずつ日本語で考えてしまうと逆に難しく考えてしまいすぎ話せなくなるということを改めて学んだ。英語で会話をするとすれば、頭の中では日本語には変換せず簡単な単語でもいいから英語に直す努力をしなければならなかったと感じた。もっと日本での日常生活で英単語や様々な言い回しなどを事前に勉強すればよかったと後悔した。改めて留学を振り返ると、少しは達成でき、成長できた部分もあったが、前述のような2つの反省点もある。しかし、良いように言い換えると、まだまだこれから自分ももっと成長することができ伸びしろのある人間であるとも言えるだろう。日本の社会問題について今まで以上に興味を持ち、英語での様々な言い回しなどを知識として入れてさらに自分自身の英語スキルを成長させたいと考える。

QUEST22 に参加するにあたって掲げた目標に対する達成度

私が QUEST22 に参加するにあたり掲げた目標は、もう少し自信をもって英語でのコミュニケーションを行えるようにするというものであった。この目標を掲げた理由としては、大学の授業で英語でのコミュニケーションを行う機会が多くあるが、自分の英語のスピーキング力に自信がなく、相手に理解してもらえなかったらどうしようという不安があることや自分が伝えたいことを英語でどのように言えばよいのかわからなくなってしまうことがあり、声が普段より小さくなってしまったり、会話に積極的に参加するということができなかったりしている現状があったことである。

DCU での授業では時制、現在完了形、冠詞、前置詞などの文法の授業を行った後、会話を行うことを重視したアクティビティを行った。私が参加したクラスの先生は、私たちのスピーキング力の向上を図ろうとしてくださる方であったため、毎日クラスで英語でのコミュニケーションが必要になる授業を行ってくださった。最初の1週間の授業は5人と少人数のクラスであったことや自身の英語力を向上させるという目標達成に向け積極的に参加しようという心構えもあったため、自分がわからない単語や理解ができないことを先生に聞いたり、発言を行ったりと授業に積極的に参加できていたと感じた。2週間目になり新しくクラスに加わった方と1対1で会話をした際も無言になる時間が多くならないようにと自分から積極的に会話を行いことができましたと思います。3週間になると、クラスが同じ人との距離も近くなり、授業以外でも話をするようになった。日本人が多いクラスであるため授業以外では日本語での会話が多くなってしまいう傾向にあったが、あえて英語で話しかけてみて、英語での会話を行おうとしたこともあった。

QUEST22 に参加し、英語でのコミュニケーションを多く行い、少しずつ英語を話す際に感じていた不安が少なくなっていくと感じた。それはスピーキング力を向上させるうえで大きな一歩であると感じた。しかし、一方で自分にもっと必要であると感じたものは、時制と語彙力であった。週の終わりに行われるテストで、スピーキングのテストがあった。その時に先生に過去のことを話す時に、動詞の時制が過去になっていないことを指摘していただいた。また、自分の語彙力がやはり少ないということを実感した。ある授業の中で自分がわからない単語が多くあり、とても苦戦したときがあった。その時に、自分の語彙力の低さを実感し、語彙の勉強にもっと力を入れなければならないと感じた。

帰国後レポート

QUEST22に参加することに対して捧げた私の目標は、英語に対するモチベーションを上げることでした。

私は、quest22に参加することをとても悩んでいましたが、今参加してよかったと心から思っています。その一番の理由は、捧げた私の目標である、英語に対するモチベーションがとても上がったからです。帰国してから、英語に触れる時間が出発前よりも増えたと感じました。

出発前は、自分が英語に触れ合うのは授業がある日か、洋画を見るときぐらいでした。また、外国人と交流するのをためらっていました。しかし、帰国してからは、Podcastを使って英語のラジオを聞いています。これは、私がアイルランドで先生から学んだ英語の学習法です。また、映画を見るときにはなるべく字幕もつけないで、英語の音声だけで聞くようになりました。

私は、アイルランドで英語の授業を受けました。この授業は、既に私は学習を終えている分野であり、簡単だと思っていました。しかし、現地で学ぶとなると難しさを感じました。

今まで理解していた英文法や、表現法が、なんとなくで理解していたことに気づきました。教科書に書いてある英文法の説明をみると、実際に私は間違っ

て使っていたことに気付く事ができたり、少しのニュアンスの違いで使い方も変わることがわかりました。このような使い方の違いは、日本で生活して、日本で英語を学んでもなかなか理解し難いことであるので、アイルランドで学べたことが自分の力になったと思います。また英文法の使い方などは、ネイティブの人がどのように使っているのかを聞いて学ぶことが早いと感じました。3週間授業を受けて、毎日私は宿題がありました。それは、1日1つのPodcastやYouTubeを見るということでした。初めは、英語での動画やラジオならなんでもいいかと思っていました。しかし、先生から、おすすめされたYouTuberの動画を見ました。それは、その人の朝から夜までの行動を日記のように話していく形の動画でした。

それを聞いてから、過去形、現在形、過去進行形、現在進行形の使い方が理解できるようになりました。授業の初めに、“昨日は何をした？”や、“明日は何をするの？”という何気ない会話をします。その日常会話でも私たちは、英文法を間違っ

Achievement rate of the stated goals for QUEST22

My goal was to find a way to create a world where no one is left behind. In Ireland, I felt that the Celtic culture was treated with great respect. Few people speak Celtic, but there were signs in Celtic alongside English on electronic signs and billboards in buses. I also sensed that they value Celtic culture in other ways. Take sports, for example. Gaelic football is the sport of the Celtic people and is very major in the country. However, there are very few non-Irish people who play it, even if you search all over the world. If it were me, I would think that I would like to learn something that is accepted worldwide, but I could sense that Irish people value their traditions. I actually went to a stadium and watched a national football tournament. People from as young as kindergarten to as old as college students were playing. I realized that this was a sport that I had been familiar with since childhood. I knew that the culture was built with Celtic tribes who were then in the position of immigrants, but when I experienced it, I felt it extraordinarily. The teacher also told me that although Celtic is now a minority language, young people are using Celtic to cover major songs. I could feel that traditions are still being passed down and cherished today. I could see new forms of tradition and culture.

There are churches all over the town, and I realized how different it is that there are churches in Japan, but not this many. On the other hand, I did not know how much the local people believed in Christianity. There were not many people worshipping in churches on weekdays.

Food culture, lifestyle, religion, etc. are completely different between Japan and Ireland, but I was able to enjoy my life in Ireland. In other words, I believe that people can live well even if their life differs from that of their home country. I was blessed with an environment that allowed me to live a comfortable life. I believe that Japan would be a better country if the immigration system in Japan were also made in consideration of the environment. For example, I was able to use the washing machine and dryer easily because the manuals had detailed instructions on how to use them. Also, a certain number of Japanese do not like the influx of other cultures, but I think it is a good thing that they do not completely merge, combine, and create new trends. I thought that even if we do not fully accept others, acknowledging each other will lead to a world where no one is left behind. Now it is my turn to be kind to others.

Achievement rate of the stated goals for QUEST22

My goal for QUEST was to improve my English skills like communication or English conversation. To be honest, I think my achievement rate is 80% because I could talk to some strangers in English. I am shy so I am not good at talking to strangers in Japan, but I strongly wanted to talk with native speakers and improve my English communication skills. At first, I hesitated to speak English in front of local people such as clerks because I did not have confidence for my English pronunciation. I realized that I could not tell what I wanted to say if I did not have any confidence. One day in class, "I recommend you to talk to strangers if you want to improve your English skills", our teacher said. After that, I was conscious of communicating with strangers. In Japan, people who do not know each other usually do not talk to at the store, the sightseeing, and so on, however, people in Ireland like talking with others even if they are strangers. It was the biggest gap for me.

I had thought that I must speak English correctly, for example, proper words, expressions or pronunciation. The thought made me depressed about speaking English, but it was not important to communicate with people. Local people can understand my poor English, so I think it is more important for us to talk without hesitation. My final goal is to improve my English skills and to enjoy talking in English. In the case of Japanese conversation, we can talk forever if we enjoy talking. On the other hand, we cannot continue talking if one person feels the conversation is boring or uncomfortable. It is also related to English conversation. I focused on continuing a fun conversation rather than using proper grammar. I was really happy when people understood my English and we could have good communication. I think I had it with my teacher and my classmates, Brazilian students. Brazilian students also came there to study English, so they often talked to us. I am very nervous to speak English in front of native speakers, but I was not nervous in front of them because their English was not perfect as well. Our conversation was not perfect, but we enjoyed talking so I could talk a lot.

Finally, what I regret is that I relied on my friend too much, for example, she often talked to people when we searched for some good restaurants. If I get an opportunity to go abroad someday, I will try to do it by myself.

Achievement rate of the stated

My goal for QUEST22 was to create many opportunities to speak English by talking to people on my own and to go to various places and interact with many people. However, there were some foreigners in the other buildings, and I was able to talk to them when I was sitting on a bench and interact with them on my own. There were also many Japanese exchange students, and I had many connections with Japanese people in Kansai and Tokyo. In many cases, I was introduced to foreign friends, and when my friends and I were talking, my foreign friends approached me and introduced me to them. After that, we exchanged social networking services and deepened our relationship. In terms of visiting various places, I went out to various tourist spots and city centers with my friends from the Department of Modern English with the goal of conversing with shopkeepers and people in town. I tried to go out as much as possible when I had time, not only to famous sightseeing spots but also to cafes recommended by international students who told me about them. As a result, I mastered how to ride the bus, asked people around me what I did not understand, and enjoyed speaking English with store clerks without feeling nervous. In class, we had many opportunities to form pairs, have conversations, and express our opinions and thoughts, and I was able to communicate a lot with my classmates. In particular, with two Brazilians in my class, we were able to chat about each other's customs, anime, and many other topics due to the cultural differences between Japan and Brazil. I was very active in class, asking questions to the teacher after class about grammar points that I did not understand during class. During this study abroad program in Ireland, I was not only able to accomplish the goal of creating opportunities to speak English, but I was also able to notice and experience various things and learn about cultural differences. In Ireland and other countries, people have a strong sense of "spend money and time on yourself," and in conversations I realized that Japanese people care too much about others. I feel that I was able to gain more than just English ability and experience, as these ideas can be gained by actually going abroad, talking, and experiencing things.

I was able to achieve my goals during this study abroad program and it was also a very good experience. And I strongly felt that I want to be able to speak English more.

Achievement rate of the stated goals for QUEST22

When I participate in QUEST22, I had two goals: improving my English skills and improving my communication skills. In order to improve my English skills, I thought it was important to participate in local activities and communicate with local people. In order to improve my communication skills, I thought it was important to get involved with people I had little contact with during my university life. I do not think I was able to achieve these two goals perfectly, but I think I did the best I could.

First, I feel that I have not been able to improve my English skills much. However, I was able to participate in local activities and communicate with people. I had many opportunities to listen to English by participating in local tours and listening to audio guides at museums. Also, when I went to store, I had opportunities to speak English by asking the store clerk for recommendations. In addition, I was able to speak English and learn about other countries by eating lunch and going out with people from other countries. However, when I spoke with my Japanese friends, I naturally spoke in Japanese, so I think I could have had more opportunities to speak English by trying to converse with my friends in English. Also, I think it helped me improve my English skills.

Next, I think I was able to improve my communication skills to some extent. Even though I was at the same university, there were people I had never been involved with until we went to QUEST22, but by the time we got back to Japan, I started talking to everyone. Also, I started talking to people from other Japanese universities not only during class, but also during breaks and when we passed each other. I would like to communicate to value my relationships with these people.

Before I went there, I was worried about whether I would be able to do well and what I would do if my English could not be understood at all. However, when I arrived at the site and tried to communicate with various people, I was able to convey most of the things if I tried hard with the feeling of trying to convey it. I felt that it is more important to try to convey something rather than being too conscious of trying to convey it well, both in terms of improving English skills and communication skills. I think that participating in QUEST22 was a good experience.

Achievement rate of the stated goals for QUEST22

I wanted to improve my English Speaking and Listening skill before I participate in QUEST22. By living there, I was able to communicate in English, and it was a lot of fun and I was able to study. During class, shopping, taking tours, and flying, I had many opportunities to speak and ask questions in English. I saw all of them as chances to improve my English skills, and actively spoke English in various situations. I thought that correct pronunciation is more important than correct grammar in everyday conversation. There were many foreigners in my class, so I didn't have many opportunities to use Japanese. I had to use English when I asked my classmates questions I didn't understand. As a result, I became able to speak simple English instantly.

Another achievement was that I was able to learn about Irish culture. I really enjoyed learning about Irish fast fashion and local cuisine, and being able to shop and eat there. It was my first time to go abroad, so I didn't know anything about life outside of Japan. I was able to enjoy learning about Irish culture in class. Going to an English-speaking country and feeling the difference from Japan was an important experience in a different way from language learning.

I also aimed to improve my TOEIC and TOEFL scores. No results yet. However, I found the listening test a little easier than before. I think this is the result of communicating in English with many local people and classmates during QUEST22. However, I didn't do much with reading problems. During QUEST22, I had many opportunities to read English, such as store signs, menus, emails, and textbooks. However, I often used dictionaries and translators because I was afraid of making mistakes. Lack of vocabulary and speedy reading skills. Therefore, I cannot solve the problem in time. This still needs improvement. However, I think this can be improved by studying in Japan. Therefore, I would like to continue studying TOEIC and TOEFL. I'm about to start job hunting, so I'd like to focus on my English test.

I got into trouble. However, thanks to the cooperation of many people, I was able to complete QUEST22. Not only did I learn English, but I was able to grow. I am grateful to many people, and I will continue to study English and do my best to be able to respond flexibly in any situation.